

越嶺会報

令和7年(2025年)5月1日

第100号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ

越嶺会http://www.etsurei@eco.u-toyama.ac.jp/

記念大会の様子が動画で見いただけます。 →

ホームページ → 行事報告 → 記念大会開催 をクリック。

記念大会の頁左下のYouTubeをクリックしてください。



越嶺会総会を開きます 6月5日(木) 18時

会場は、富山駅北の「カナルパークホテル富山」です。

20頁をご覧ください。

現役学生さんらの研究発表があります。

人口減少、若年女性の流出をテーマにしたもので、3月に県庁で発表を行い、NHKや新聞でも取り上げられたものです。

また、富山大学吹奏楽団の演奏もあります。

——— 目 ——— 次 ———

越嶺会報が第100号になりました 1

100周年記念事業募金芳名録 4

母校だより 11

卒業 学部長式辞、越嶺会長祝辞 12

入学 入学者出身地 16

富山大学統合20周年記念行事案内 16

支部・各回だより 17

関東越嶺会講演会・新年会 17

石川県大学OB対抗ゴルフ大会 18

事務局からのお知らせ 18

会員の訃報 19

越嶺会総会、各地支部総会のご案内 19

越嶺会報第1号 昭和53(1978)年6月1日発行

越嶺会報

昭和53年(1978年)6月1日

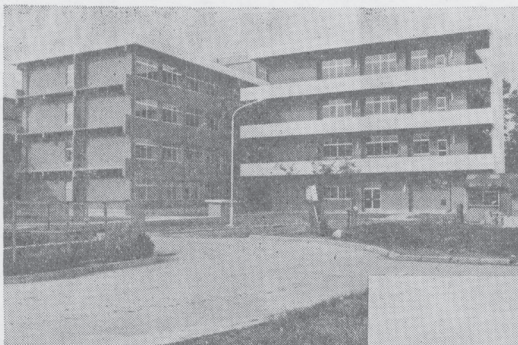
第1号

発行 越嶺会本部

〒930 富山市五福3190

富山大学経済学部内

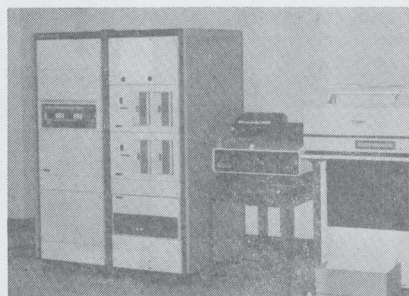
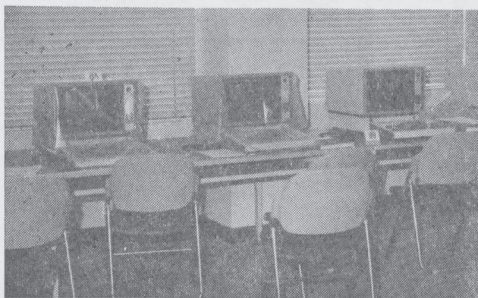
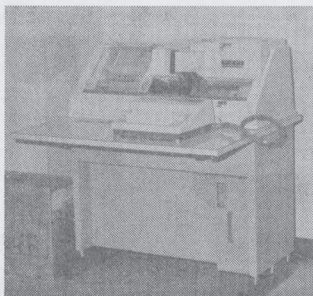
☎ 0764-41-1278 内線476



◀新築なった
演習棟(左)・講義棟(右)

▼増築した管理・研究棟

▼コンピューター室



越嶺会の出番だ

―第百号発行に際して―

越嶺会

最高顧問 中尾哲雄



昭和五三年(一九七八)の六月に第一号が発行された。

昨年、学部百周年の記念事業を行ない、それほどぼつとを同じくして第百号を出せたことをうれしく思う。第一号の「越嶺随想」には高商八回卒の工藤吉郎先輩(三井物産常務)の「思い出」が載っている。

高商の学生も堂々と花柳界に遊んだ話、あの小熊信行教授の名講義のことなどが書かれている。氏には仕事上大変お世話になった。

「新緑が萌え百花繚乱と

咲き、爽やかな薫風・・・」第一号発行に寄せられたわが師、新田隆信教授(学部長)の言葉も印象的である。「越嶺会が同窓の励みや慰めとなり、母校の連携に資し教養や価値観を磨くよすがに役立てば会報発刊に献身された方々の労苦に報いられる・・・」と閉められている。

会報は記録であると同時に記憶であり、さらに「同窓の連帯」である。

さて、現在、わが国の経済、社会は極めて危機的な状況にある。そして国中に悲観論が横行している。われわれ越嶺会はこのような悲観論を排して活力ある地域、日本の再生を図っていかなければならない。

大げさではあるが、越嶺会の出番である。自己研鑽に励み、社会のために頑張っていこうではないか。

二〇〇号が出るとき、どんな国になっているだろうか。

「越嶺会報」が第一〇〇号になりました。

ご支援ご協力に御礼申し上げます。

今後ともよろしくお願いいたします

右の写真のように、昭和五三(一九七八)年六月一日付で第一号を発行してから、このたび令和七(二〇二五)年五月に第一〇〇号を発行することができました。

第一号は、高商一九回、経済学部二六回、短大部一七回までで約七千部余りを発送しました。

現在は、高商一九回、経済学部七三回、短大部二九回、大学院三三回まで計一万六千部余を発送しています。

原則年二回発行を続けて四七年間、途中一〇〇周年など記念の際は発行回数を増やしました。

この越嶺会報以前は、「越嶺会だより」を第一号は昭和三十一年十一月二日付、第三号は三十五年八月一日付にて新聞紙大B3判で発行していましたが、第三号で沙汰止みとなりました。

越嶺会報は、綴って保管し易いようにと、B5判にしました。行政文書等のA4判統一が一九九三年四月から進められた以降も今日までこの形で来しました。

会報の構成は、冒頭に学部教員の寄稿による「越嶺論壇」、会員の「越嶺随想」を掲げ、次いで「母校だより」として、教員の異動(定年、昇任、新任、転出)、学会報告、学生ゼミの動きなどを掲載しています。

そのあとに、越嶺会からのお知らせとして、本部をはじめ支部、各回、各部だよりを載せ、「会員ひろば」で会員の投稿を載せてきました。最近希望者に卒業論文をお返ししています。卒業論文を返却してもらったの感想などを掲載しています。

さらに、会員の訃報として会員名とご命日をお知らせしています。

寄附 1,127件 35,775,012円也

高商	九回	九嶺会	一十七万四四七
十五回	故宮島	一	一万
十八回	越田	繁	一万
十九回	故安藤	重吉	一万
学部	故西山	貞男	五万
高岡市役所越嶺会			一〇万
丹羽ゼミ〇B会			三万六二四六
福井支部			五千
一回	鍛冶	功	五千
林	一雄		五万
匿	名		非表示
堀田	章		一万五千
二回	伊三		一〇万
三回	申喜		一万
北野	名		非表示
匿	名		非表示
由田	實		二万
吉原	節夫		一〇万
四回	故久世	道雄	非表示
荒城	重義		一万
石黒	靖夫		非表示
匿	名		非表示
伊藤	孝子		三万
浦嶋	恵稔		一万
大平	恵久		五千
柿埜	昌彦		二万
木村	昌治		五千
桑野	重英		二万
坂田	敏力		二万
故島倉	敏夫		二万
杉林	治武		二万
鶴本	祐一		一万
匿	名		非表示
故中保	公英		一万
西田	良造		一万
橋本	石郎		一万
早瀬	弘		五万
福田	明		五万
八回			
大橋	武次		一万
今井	進		一万
井林	勇		二万
井上	縣		三万
赤祖父	清義		一〇万
森	博宏		一万
舟川	吉弘		五千
苗崎	倫明		非表示
新田	一順		一万
寺西	茂隆		一万
塚田	宗之		一〇万
高田	利平		非表示
塩井	勉		一万
塩井	一之		一万
小泉	健夫		二万
絹野	夫		二万
河合	安夫		二万
岡本	義悌		二万
稲垣	俊吉		二万
横山	巖		非表示
匿	名		非表示
本村	正忠		非表示
藤岡	謹之介		非表示
平井	岑生		一万
中島	正彦		三千
立澤	利雄		五千
杉本	泰三		一万
佐野	八朗		非表示
藏堀	進		一万
金森	多計志		非表示
大村	政昭		一万
遠藤	守男		二万
岩城	昭夫		二万
稻垣	章夫		二万
渡辺	繁		二万
吉田	甚一		二万
宮崎	宗二		二万
藤野			二万
九回			
荻布	昌外		一万
織田	明		二万
角田	照雄		二万
桑	八郎		一〇万
河渡	徹哉		二万
堺	正道		二万
志甫	文男		一万
城川	外廣		一万
新保	哲夫		一〇万
高土	信二		一〇万
高林	正明		二万
多島	哲雄		一万
中尾	修		一〇〇〇万
西倉	勉		五万
野寄	隆造		二万
長谷川	克人		二万
前川	俊三		二万
松山	克人		二万
余川	外次		一〇万
伊勢	公一		一万
市丸	正夫		一万
岩坂	文基		一万
上埜	博雄		一万
岡崎	照勝		一万
北村	直彦		一万
重田	名		非表示
匿	敏男		一万
高木	健治		一万
故中	修司		一万
中野	恒夫		一万
幅	恒夫		一万
故本江	繁		一万
水名	武夫		一万
室橋	茂男		一万
山村	幸男		一万
横越	孝次		一万
横山	登		二万
渡辺	義雄		二万

十一回

十回

藤田 橋本 塚高 杉澤 島田 佐野 柳原 黒谷 故井上 稲田 伊藤 石出 故五十里 秋元 脇坂 横江 山村 水野 故舟田 中山 富田 富崎 関野 杉本 杉政 新庄 故篠田 佐橋 國田 蚊野 金田 柿埜 故太田 植田 市田 粟島
長悦 功勉 光雄 邦文 吉博 誠二郎 志典 悦夫 義雄 喜文 壽彦 宗秀 瑞也 亨 重彦 義弘 英毅 恒芳 賢治 邦雄 和男 雄三 靖雄 文秀 勉 守功 克清 元彦 龍也 忠雄 耕一 毅

[illegible]

十三回

十二回

佐藤 北條
々木 堀田
木法一 正紘
謙進 盤
櫻田 謙志
小林 一郎
熊本勝四郎
北村哲夫
故金山准一
五十嵐男一
天谷昭信
山崎浩
柳原幸實
柳澤紀一
村上修朗
藤田厚勇
野村政壽
七山弘
長森正弘
永井喜一郎
瀧脇通康
高松正昭
素野義博
須沼吉明
白江一昭
小橋啓一
河原義和
上野美捷
飯田一進
荒川裕
吉田君夫
横山逸郎
森川昭男
村崎茂
松原健作
松野邦雄
堀田宏

一五五非
万千千表
示万万
一五
万
一三
万
一一
万
二二
万
一一
万
一一
万
二一
万
非
表
示
一
万
二
万
一
万
一
万
非
表
示
五
千
非
表
示
二
万
五
千
一
万
一
万
非
表
示
三
万
二
万
一
万
一
万
非
表
示
二
万
一
万
二
万
一
万
非
表
示

十四回

杉山 杉田 杉浦 下平 品田 黒田 熊谷 片岡 梯岡 岡田 太田 大澤 学部 脇田 若林 吉田 吉居 横井 行本 山本 宮森 故宮本 松本 古山 広上 日野 原 幅崎 博多 西田 西尾 故中村 富田 常木 小路 清水
 鋤一 征司 吉治 邦弘 悦孝 克己 隆夫 英夫 左武良 茂 一紀 毅 周 達 良三 正和 謙治 義則 達男 修三 紀好 孝 浩 英夫 巖 忠夫 正治 務 義雄 達弘 欣一 稔 勇夫 哲也 善博 博久 汎

[illegible]

十五回

萩谷	子吉	中澤	徳田	出嶋	鈴木	清水	重久	黒崎	川田	亀谷	入江	今井	有岡	東	渡邊	渡辺	四津	矢野	守田	宮坂	南	水野	松井	細木	藤村	藤岡	福田	針原	中山	中村	中野	中土	故中	中谷	内藤	徳永	寺崎	出口
雅文	重信	邦雄	毅	紀一郎	康夫	忠勝	孝造	正義	晴光	昭雄	弘学	鐵夫	松男	忠樹	慶孝	勝海	井宏	八郎	力	穎一	章	俊雄	三郎	文夫	亘	正紀	隆一	雄四郎	武夫	栄一	詔弥	盛曠	正八	克昭	寛	不彦	康彦	明男

[illegible]

十七回

川嶋隆志	兼松稔	奥野雅雄	大坪登喜雄	上埜進	今泉四郎	磯井幹彦	池田匠一郎	青田昌修	若山毅	若山治夫	蓑國夫	蜜澤有二	堀道彦	針山健二	早川正敏	渡久山楯洋	田茂一夫	上原澄博	守護實	佐藤公治	小西由郎	小泉孝二	桑原午房しづ子	久郷隆行	匿名泰則	伊藤實	匿名弘	浅井榮一	吉田秀彦	安江勝彦	森川忠彦	三浦弘	松田信夫	松井正文	本多慎一郎	堀茂春	林		
非表示	非表示	二万	一万	一〇万	三万	非表示	一万	一万	一万	一万	二万	二万	二万	二万	二万	非表示	一万	一〇万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	非表示	二万	一万	非表示	二万	二万	一万	一万	一万	一万	二万	一万	一万	非表示	非表示

十六回

十八回

宮崎	水本	水野	松下	益下	細萱	古田	福田	日出	般若	浜松	浜田	羽廣	長谷	野村	野田	中岡	鳥本	富田	高原	高島	島田	佐々	小栗	大前	太田	遠藤	稻村	松枝	西坂	中西	殿村	田中	高田	篠田	佐野	吳座	郡	黒田
保彦	隆範	晃	清一郎	美雄	美嗣	俊吉	孝志	哲郎	恒夫	政俊	嘉一	健郎	邦雄	次郎	哲男	昌弘	大三郎	徹	省一	重夫	俊夫	清光	隆一	重和	敏之	敏夫	一博	緑郎	誠一	和敏	政彦	幹夫	政治	憲正	孝一	馨	宣夫	
一	一	一	一	一	一	二	二	二	非表示	一	一	非表示	七	一	三	非表示	一	一	一	一	一	非表示	二	一	非表示	五	二	一	二	一	一	五	三	一	非表示	一	二	一
万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	万	千	万	万	万	万	万	万

二十回

十九回

宮地秀明	谷内雅彦	吉國睦治	青木幸男	今井修一	奧清一	金森喜久男	後藤健次	齊藤俊明	島津一夫	祖父江俊明	高田真悟	高野昇	田辺知昭	田畑敏美	津田久次	寺越慎一	寺崎伸一	西堀喜久夫	能町誠一	伴茂浩	福田幸進	松田弘之	緑田忠夫	山下寛	匿名	匿名	浅生正明	衣達賢太郎	上田敏裕	浦田規央	遠藤実	匿名	大橋正幸	小河俊紀	匿名	小野崇	加藤博祥			
非表示	二万	三万	一万	三万	非表示	一万	二万	一万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	非表示	四万	二万	二万	非表示	非表示	非表示	非表示	非表示	一万	五万	一万	一万	一万	二万	二万	非表示	非表示	二万	二万	非表示	二万	一万

二二二回

二二回

浅野	昭和四五年入学者同期会	米原俊孝	山本信男	村上良平	匿名一夫	林名	橋本良平	苗加洋二	寺田正信	谷和夫	高木正二	澤合文雄	釜谷春雄	角出憲明	小竹茂樹	奥村正明	浦本寛	石橋高明	吉谷知二	森田隆義	堀下俊夫	堀尾幸雄	舟岡克美	樋口英雄	辻敏憲	長徳外次	関井哲仁	柴慎一郎	倉坪政範
穴田好生																													
一〇〇万	非表示 五万	一万	二万	二万	非表示 一万	二万	一〇〇万	二万	一万	二万	二万	八万	一万	三万	二万	二万	非表示 二万	非表示 一万	非表示 一万	一万	非表示 五万	三万	二万	一万	一万	一万	五千	非表示 一万	一〇万

飯田	山崎	安田	森田	三宅	南	南	水野	松井	榎	堀	北国	東山	花尾	長谷川	中村	中村	中坪	中島	鳥居	寺田	千葉	田中	立松	武部	竹澤	武内	杉森	黒川	酌井	窪井	川畑	上條	加藤	帶原	往藏	梅本	石田
修平	達郎	守保	順博	毅子	博	清信	二	春夫	雄一	正則	伊久雄	芳雄	修	弘	政直	春夫	達哉	澄雄	登	茂幸	史	信孝	喜孝	喜孝	清孝	博美	建司	滋樹	光信	健太郎	龍夫	清一	聡				

一 一 非 一 非
○一五一〇一二二表一一二二三一二三一二二二三一二一一二二一二一一一五二一二二三表
万万千万万万万万示万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万万示

二五回

二四回

石原 昇治 名
金子 安彦 一裕
菊野 繁 俊夫
窪田 敏博 修
佐竹 俊修
清水 敏修
竹田 敏博
山口 俊幸
谷口 良一
中山 良一
名小路 朝雄
橋本 邦雄
樋口 高利
平方 睦男
松尾 博文
松本 勝見
松本 敏郎
毛利 彰
池川 栄治
横原 孝一
蘭守 貴弘
尾山 和之
庄司 美次
末永 孝光
田中 久夫
寺戸 弘之
匿名 名
服部 重敬
藤田 龍造
青山 誠一
麻生 郁彦
荒塚 一修
飯塚 成修
石川 富洋
奥井 速男
加須 榮朗
吉川 倫子
遠山 次男
中島 裕三

[illegible]

二七回

二六回

浅田	持田	皆川	増井	堀田	細川	平田	幅岸	沼田	西尾	匿	匿	高田	鈴木	柴田	塩原	三箇	午房	小寺	小西	川端	川口	金武	金田	笠松	開發	奥田	内山	伊藤	五十嵐	森澤	村山	宮岸	三辺	匿	橋本	布目	匿	成田
章敬	藤寛	秀次	正之	茂夫	利孝	喜夫	外喜	達男	連男	名	名	昭一	俊一	周治	秀雄	郁生	隆	文夫	謙一郎	和宏	弥之久	一久	輝雄	泰三	高秀	恒俊	昌子	寿正	善隆	昌子	名	大剛	順一					

[illegible]

二八回

伊田知弘	市井仲二	岩垣誠	岩見登志久	榎哲史	大澤道信	大野昌伸	泰典	繁也	哲夫	威則	基裕	正明	武人	靖史	幸一	教雄	成人	悟	清雅	稔久	芳明	幸博	茂美	正人	信雄	靖明	裕毅	昭夫	和幸	秀一	哲哉	隆之	静男	正一	光一	健一	奥村
永田	市川	岩間	榎澤	大野	大野	小川	小川	樺木	川瀬	小林	櫻井	島	曾我	中條	常本	長中	永瀬	馬場	林	林	平工	廣瀬	藤井	前田	松井	森川	山	吉野	和多利	荒木	井波	確井	海野	奥村			

非表示 一〇 一 一 一 一 非表示 二 一 五 一 一 一 二 一 二 一 二 一 二 一 非表示 二 一 一 一 二 三 二 二 二 二 二 二 非表示 非表示 一 一 非表示 非表示 二 二

二九回

細川	古川	福井	吹澤	広瀬	平野	鶴瀬	鈴河	黒野	草野	匿	梶井	荻田	伊豆	東村	吉田	吉本	匿	山上	森	前川	古岡	春成	原馬	林	濱田	辻	作道	高月	曾禰	杉野	嶋崎	佐竹	佐伯	桐山	北	河井	乙部
俊治	均	直樹	尚彦	達也	恵次	初弘	政司	圭勉	名	昇	勤	一美	優治	恭宣	正克	英博	名	嘉江	秀貴	克博	雅弘	肇	宏之	慎司	博一	年男	正勝	樹夫	高崎	原孝夫	武義	萬貢	健一	俊明	重夫	昭広	

一一三一一三二二三一一二表五一二二一—二表一一三一—二—五———三二———非
万万万万万万万万示万万万万万万示万万千万万万万万万万示

三〇回

山田 山下 村上 三上 哲夫 田本 田廣 萩田 野沢 野村 野路 中根 中田 中嶋 長坂 寺西 恒川 辻中 田中 関口 杉村 杉林 小林 伍嶋 桑原 京都 乙部 大野 内田 伊野 池村 麻生 脇田 山城 柳村 宮村 匿田 松田 松島 堀田

吉晴 津進 哲夫 隆豊 元昭 豊秋 耕三 吉孝 登夫 和夫 浩顕 保彦 裕行 哲二 康智 清富 裕進 功將 美男 幹也 武彦 寿範 公久 保志 仲英 莊平 成俊 守男 卓三 勝彦 名樹 義之 孝彦 雄

・都

[illegible]

三二二回

森永 利宏 村田 浩一 松田 信一 福田 康浩 福住 哲也 長谷川 純一 寺坂 信修 野松 信宏 津幡 博悟 竹野 博和 高橋 俊徹 加藤 俊一 数川 晃一 石井 幸治 秋元 一秀 綿木 美和 横尾 圭進 松田 圭勉 舟山 忠彦 林崎 友晶 中村 哲広 中島 弘人 高山 一登 篠原 義明 澤田 博栄 境能 徹哉 西村 昌幸 柿本 浩和 遠藤 浩彰 岩瀬 正昭 石田和裕・恵子 石黒希与志 四柳 克彦 匿名 吉澤 忠寛

[illegible]

三十一回

三四回

野崎	中山	土屋	土屋	棚瀬	田中	舘田	島田	鳥田	崎	小林	木村	尾関	奥井	大塚	渥美	青木	横田	匿名	本國	福田	中山	中本	寺西	田中	田中	曾我	鈴木	佐藤	坂田	北藤	工藤	小野	匿名	大河	浦井	油谷	匿名	山本	森山
栄治	浩司	雅裕	誠	重雄	聡	秀秋	靖子	しのぶ	安宏	敦	温子	佳子	智保	真実	一也	謙治	名	俊明	直之	洋	秀史	一彦	博明	新助	英次	弘	徹	昌弘	治	浩	寺隆人	名	正則	正明	浩	名	康二	徹	

二万 三万 一万 五万 非表示 四万 非表示 二万 二万 二万 非表示 非表示 二万 非表示 二万 非表示 一万 非表示 二万 二万 非表示 非表示 三万五千 二万 二万 二万 二万 四万 非表示 二万 二万 非表示 一万 非表示 一万

三三三回

[illegible]

三六回

三五回

堀川 深田 野崎 西野 新納 中野 高木 杉本 澤田 川端 川田 浦田 植野 吉田 吉田 匿 藤崎 古里 中島 椿 清水 小原 表 岡本 大橋 太田 井上 荒井 山田 山瀬 森山 水谷 丸杉 松本 松本 檜代 濱田 橋本

清和茂勝正和宏文純雪千名博直哲智永靖敏広真人智晃憲和並茂
亨就悟和宏洋岳教洋也典彦一絵誠秋人弘裕之豊朗美武幸宏樹勉孝人朗輝広司良惠雄

一 二 万	表 示	三 二 万	一 三 万	二 三 万	二 二 万	一 二 万	表 示	三 五 千	二 万	表 示	二 二 万	一 二 万	表 示	一 万	表 示	二 二 万	二 二 万	表 示	一 五 万	八 二 万	二 一 万	三 八 万	一 二 万	表 示	二 二 万
-------------	--------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------	-------------	--------	--------	-------------	-------------	--------	--------	--------	-------------	-------------	--------	-------------	-------------	-------------	-------------	-------------	--------	-------------

三九回

三八回

三七回

丸山三井村山内山村遊道由大西開酒井島田関戸高谷常盤松本宮田室崎山田伊藤岩村大波加藤黒川五島高木竹田殿村西井二口匿牧野毛森山田四日匿龜永

辰名 和規俊修仲一名 由幸達雅直名 加字彰毅武滿典真浩公 說哲雄隆頼聖勇麻國
之 努代幸治郎 洋子子矢弘樹央 健肇 範彦幸彦玲彦靖英美一志誠朗憲章昭一美夫
昌代

二万 非表示 非表示 一三万 非表示 二五万 非表示 二五万 一〇万 二二万 非表示 二二万 非表示 二二万

四二回

四一四

四〇回

野田 東田 高山 匿市 牧山 西田 匿田 田内 鈴木 神保 金瀬 吉住 三原 南井 福崎 中嶋 寺嶋 匿田 新川 島谷 肥田 赤塚 赤川 匿溝 前田 古谷 二口 林沼 沼田 谷地 土口 匿重 北原

尚志 男秀 千春 名 順敬 貴英 泰郎 名 克佳 憲 達也 州広 正志 大弥子 宗緒子 和之 直美 名 兼史 創 武志 興子 浩一 名 譽美子 健 真也 正崇 孝正 卓嗣 名 孝春 茂正

二万	二万	二万	非表示	非表示	三万	一万	三万	三万	非表示	五万	一万	二万	二万	非表示	一万	非表示	五千	二万	非表示	一万	二万	非表示	一万	三万	非表示	五万	二万	一万	五千	一万	一万	一万	非表示	二万	二万
----	----	----	-----	-----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	-----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----

五〇回

四九回

四八回

四七回

四六回

四五回

四四回

四二回

後平 匿 中島 匿 沖矢 山田 宮野 堀 匿 匿 黒田 池永 塩入 佐藤 倉地 村田 小森 小井 匿 石井 林 匿 杉原 高橋 齊藤 若林 森藤 松井 浜畑 手崎 土本 高橋 匿 匿 吉崎 匿 匿

智孝 名 優子 名 康浩 靖幸 昌英 健二 名 名 祥子 和美 正和 博之 英久 哲治 政男 孝雄 名 広麗 名 英樹 学 和美 正浩 早苗 裕之 名 名 明弘 名 名

非表示五千
非表示一万
非表示一〇万
非表示一十一万
非表示一二万
非表示二二万
非表示三二万
非表示四二万
非表示五二万
非表示五五万
非表示五五五万
非表示六五五五万
非表示七五五五五万
非表示八五五五五五万
非表示九五五五五五五万
非表示九五六五五五五五万
非表示九九五六五五五五五万

十回	九回			八回		六回		五回		四回								三回	二回	一回	短大部同窓会																	
匿名	河原	河瀬	山崎	宮本	松沢	野田	安倍	匿名	匿名	匿名	大垣	山本	榎崎	中田	永井	立井	稲垣	青木	若松	水馬	藤岡	尚和	池上	吉崎	本吉	前田	福田	寺田	高田	菅原	新開	押田	大久保	林貞昭	稲垣喜夫	稲垣隆司	新鞍	
名憲行	和文	弘之	裕孝	一郎	洋清	則子	名	名	名	輝夫	賢治	正雄	征夫	寛夫	照史	正和	勲二	華子	正二	真之	明利	秀雄	政昭	実夫	邦弘	貞昭	喜夫	隆司	五万	四万	七万	八万	九万					
非表示	一萬	五千	一萬	二萬	五萬	二萬	二萬	非表示	非表示	非表示	二萬	一萬	一萬	一萬	一萬	一萬	五萬	一萬	一萬	二萬	一萬	五萬	五千	五萬	一萬	五萬	三千	一萬	三萬	三萬	五萬	非表示	三萬	一萬	一萬	一萬	五萬	二萬
三一 回	三〇 回	二七 回	二三 回		十四 回	九回	四回	院	二六 回	二五 回		二四 回	二三 回		二二 回	二一 回			二十 回	十七 回				十六 回			十五 回		十四 回		十三 回		十二 回		十一 回			
清水	田形	三浦	森井	大垣	石丸	福井	浅生	宝土	匿名	野嶋	山崎	野村	福沢	吉内	宮内	村井	吉美	折川	沢泉	関口	藤崎	志村	大津	浦田	松野	藤井	竹下	津本	湯本	中田	嶋田	古田	出村	北林	重松	藤縄		
康雄	昌敏	麻子	信次	輝夫	幸等	幸博		彰吾	名	清雄	宗良	祐子	俊久	俊一	邦明	正美	卓志	正矩	吉夫	幸光	保信	竹昭	秀三	外史	虎隆	健一	茂晴	暉彦	敏幸	恒好	文治	信博						
一萬	一〇萬	五萬	二萬	一萬	五萬	五萬	一萬	非表示	一萬	一萬	一萬	一萬	五萬	五萬	五萬	一萬	一萬	一萬	二萬	五萬	一萬	一萬	五萬	一萬	一萬	一萬	三萬	一萬	五萬	一萬	一萬	二萬	五萬	五萬	一萬	非表示		

一，一二七件
三五七七五〇一二円也

学部長	森口 毅彦	一〇万
現教員	柳原佐智子	五万
元教職員	匿 名	非表示
香川 孝三	一万	
亀田 速穂	三万	
下崎千代子	一万	
故武 暢夫	二〇万	
武 久美子	二〇万	
武井 勲	非表示	
谷川 裕子	一万	
新里 泰孝	一万	
増田 信彦	一〇万	
故山口 素光	五万	

母校だより

教員の異動

(二〇二五年四月一日付)
経済学部長

森口毅彦教授が三選された。
評議員は唐戸広志教授、副学
部長は馬駿教授となった。

経済学部ゼミナール協議会
「ESTUDIO 復刊第一
七号(通巻第四八号)」「二〇
二五年三月刊」掲載論文一覧

一九三〇年代スウェーデンの
人口論争が日本に示唆するも
の

岡部 蓮、中川 格

介護産業が地方産業の柱とな
る条件を考える

伊藤 凌太、越知亜斗夢
富田 優奈

公正競争に向けた電力供給体
制の在り方―不正閲覧事件か
ら考察する電力自由化体制―

木谷 実花、栗 彩乃
前川 諒斗

理想と現実の年収の差、物価
高への対策

池田 奈央、織田 航汰
木下 剛志、駒 大輝
松山 英介

貯蓄から投資への移行は我々に
どのような影響を与えるのか

中川 瑛仁、中島 雄希
中野 皓太、長谷川歩夢
林 大斗

富山県における若年女性の流
出要因に関する研究―富山県
の実態と若年層が求めるもの―

東堂 桂修、谷 晃成
山崎 真実

高岡銅器における分業体制の
変化と課題

上野 隼颯、高松 咲季

富山県・石川県の製造業就業
者における女性の活躍について
―企業の現状と女性管理職登
用を促進する取り組みとは―

高須 陸斗、八島 未夢

デマンド交通の現状と持続可
能な地域交通への課題―朝日
町、南砺市、氷見市を事例に―

佐藤 琉生、堀井 心音

卒業

令和六年度の富山大学学位
記授与式は三月二五日(火)
富山市総合体育館で挙行され
た。学部生や大学院生二二二
五名が学位を授与された。学
長表彰があり経済学部では、
池田さくらさん、山田陽子さ
んの二名が表彰された。
経済学部第七三回生となる
三三四名、大学院第三三回と
なる大学院共創経済プログラ
ム修了生一四名が学位を授与
された。

経済学部の授与式は午後一
時半から富山国際会議場に移
って行われ、森口学部長の式
辞、伍嶋越嶺会長の祝辞があ
り、山田陽子さんが答辞を述
べた。

その後、隣接のANAホテ
ルでの祝賀会に臨んだ。

はじめに、越嶺会役員の二
口洋氏がお祝いの言葉を述べ
たいで、岩内教授が乾杯の発
声をして開宴した。

壇上は、定年退職される龍
世祥教授ゼミをはじめ、グル
ープで記念撮影が始まった。

最後は定年退職となる松井
隆幸教授が、お祝いの言葉を
述べお開きとなった。



乾杯発声 岩内先生



二口洋氏が開会挨拶



円陣を組んで

経済学部長 式辞



森口学部長

皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。今日の日を迎えられたことを、経済学部教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。

また、これまで皆さんの学業を支えてこられた保護者の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。

そして、本日、来賓として、経済学部同窓会・越嶺会の伍嶋会長にご臨席賜り、学位記の授与を行うことは、私たちの慶びとするところでございます。

さて、卒業生・修了生の皆さんは、本日をもって大学での学びを終え、社会に向けて巣立って行かれます。それぞれが社会人としての生活に大きな期待と希望を抱いていることと思います。

この四年間、皆さんは、勉強や部活・サークル活動、ア

ルバイトなど、思い思いの活動に取り組み、充実した学生生活を送ってこられたと思います。その中で、自分自身と向き合いながら、また仲間と切磋琢磨し合いながら、社会へ出て活躍するための様々な力を培ってきたことでしょう。これから、その力を存分に発揮して社会で大きく躍動してほしいと思います。

しかし、皆さんの前に広がっているのは、大きな変化が頻発する、先を見通すことが難しい不確実な世界です。想定外のことが当たり前に起こる世の中です。そうした世界の中で、未知の状況に立ち向かい、自らの道を切り拓いていくために、ぜひ「挑戦する心」を強く持つてほしいと思います。若い皆さんだからこそ持つ、柔軟な発想力や創造力、行動力、こうした力が強力な武器になるはずで、ぜひいろいろなことにチャレンジしてみてください。

その際、失敗や間違いを恐れる気持ちが障壁となるかもしれないかもしれません。誰でも失敗や間違いはしたくないでしょう。特に、社会に出てからは、自分に対する評価に関わって、失敗や間違いは避けたいとい

う気持ちになるでしょう。

アメリカの投資会社バークシャー・ハザウェイを率いる世界有数の投資家ウォーレン・バフェット氏についてはご存じの方も多いかと思いますが、同氏が今年発表した「株主への手紙」の中で、次のように語っています。「間違いは犯すものだ。最大の罪は、間違いの修正を遅らせることだ。問題は願うだけでは消えない。行動が必要だ。」(一部抜粋)

つまり、失敗や間違いことが悪いのではなく、それを認めず、問題を先送りすることが最大の過ちだということだと思います。ですから、失敗したり間違ったりしたらそれを認め修正していくべきなのです。こうした考え方の前提になっているのは、この不確実な世界の中では、正確に将来を見通すことはできず、失敗や間違いが起こるのは仕方のないことだということだと思います。

ですから、失敗や間違いを恐れるあまり、何もしない、挑戦しないのではなく、はじめるから完璧なもの难求めず、失敗や間違いがあることを前提に挑戦したうえで、もし失敗したらそれを認め、修正するという考え方を持つことが大事

です。それによって、挑戦そのものがしやすくなるでしょう。失敗を恐れず挑戦することはみなさんのような若い人たちに与えられた特権でもあります。挑戦がなければ、止まってしまいます。むしろ失敗したこと、間違ったことを経験として学び、次に活かすことで、自分の成長につなげていくはずで、ぜひ失敗を恐れず挑戦する心を強く持つてほしいと思います。皆さんが挑戦し続ける限り、未来は開かれていると思います。

また、「挑戦し続ける心を持つ」ということは、これからの時代を生き抜いていくためにも、とても大切になってきます。人生百年時代といわれて久しいですが、皆さんの時代には間違いなく現実のものとなるでしょう。こうした時代には、必要に応じて学び直しを行い、新しい時代に対応できる力を身につけていくことが求められるようになってきます。つまり、自分自身を時代環境に合わせ、アップデートし、絶えず自らの価値を高めていくことが必要になってきます。そうした中にあるのは、新しい学びに挑戦し続けることができるかどうか、自らの人

生を豊かで充実したものにできるかに大きく関わってくることにあります。ぜひ皆さんには、常に好奇心をもって、前向きに新しい学びに挑戦してほしいと思います。そうした学びは自信につながり、次の新しい挑戦へつながっていくことになるはずです。

新しい学びへの挑戦の際には、ぜひ大学・大学院を活用してください。大学は卒業した終わりではありません。新しい学び、より高度な学びのために戻ってくることでできます。それに対応すべく、大学も大学院も進化を続けています。社会人を経験して一回り成長した皆さんと議論を戦わせる学びの場が実現する日を楽しみにしています。

また大学は必ずしも学問的な学びだけではなく、皆さんは、大学生活を通じて生涯にわたるかけがえのない仲間に出会えたのではないのでしょうか。このように、大学は自らの人間性を高めていく人生の学びをする場でもあります。ですから、社会に出て困難にぶつかった時、心の支えが必要になった時には、ぜひ懐かしい学び舎を訪ねてきてください。きっと恩師や先輩たちが温かく迎えてくれる

はずです。そして、再び困難に立ち向かう勇氣と力を与えてくれると思います。

さて、今日から富山大学経済学部、大学院共創経済プログラムは、皆さんの母校となります。経済学部は昨年創立一〇〇周年を迎え、これまで二万六千名にのぼる卒業生を送り出してきておりますが、それぞれが地域社会、そして全国各地で活躍されております。そうした先輩たちは間違いなく皆さんの味方となつて力を貸してくれるはずです。今はまだ社会に出る不安を感じている方がいるかもしれませんが、皆さんを支えてくれる人たちが大勢いるということとを心の支えにして、自らの道を自信をもって進んでいてほしいと思います。

皆さんの将来が実り多きものであることを心から願いまして、経済学部、大学院共創経済プログラム学位記授与式の式辞といたします。

令和七年三月二五日
富山大学経済学部長
森口 毅彦



中村ゼミ



看板の前で



柳原ゼミ



高山ゼミ



開場前の休憩



岸本ゼミ

越嶺会会長 祝辞



伍嶋会長

皆さん、本日は、ご卒業及び修了をなされ、誠にありがとうございます。

今日の卒業の日まで、皆さんを支え励ましてこられたご家族やご親族の皆様には、さぞやお喜びのことと存じます。経済学部同窓会を代表して、心よりお祝いを申し上げます。とともに、森口学部長先生並びに熱心にご指導いただいた教職員の方々のご功勞に対しまして敬意を表するものであります。

経済学部の同窓会である我が越嶺会は、これまで延べ約二万六千名の会員を有してきており、それぞれ国内外の企業や地域経済の担い手として幅広く活躍され、昨年の二〇二四年（令和六年）には、経済学部の創立一〇〇周年という大きな節目を迎えたところでもあります。

本日の卒業式は、これからの長い人生において、何度か振り返る大変重要な記念日として記憶に残ることと思います。

今、皆さんの胸中には、この富山大学で学んだ多くのこととや経験したことが脳裏に浮かび大きな達成感を味わうとともに、一方では、これから

の人生が、どのように展開していくのか、少しばかりの不安と大きな期待とが入り混じっておられるのではないかと思います。

今後は、それぞれの目標や理想の実現に向かって、これまで学んでこられた様々な知識や経験を、いよいよ実践の場である社会において活用していく、新たなステージに立たれることとなります。

特に、皆さんの大学生活は、世界中に感染拡大した新型コロナウイルス禍により、これまで経験したことのない制約を受けながら時間を過ごされるなど、本当に厳しくて、つらい生活を経験されてきたものと思います。

であり、現代の成熟社会においても、こうした想定外のことが実際に起こりうるのだと、皆さんも驚きと不安を感じられたのではないかと思います。

一方、国内をみますと、少子高齢化に伴い潜在成長率が低下している中で、人口知能（AI）や自動運転化などの先端技術の開発が加速した時期でもありました。また、テレワークなどの働き方改革をはじめ、デジタル技術を活用した生産性の向上や、世界的な課題でもある地球温暖化に対応すべく事業戦略の見直しが進むなど、社会経済環境が劇変した時期であったと思います。

また、世界に眼を転じると、台湾に圧力を強める中国と米国との対立の激化や、ロシアによるウクライナ侵攻などにより、エネルギー価格の高騰などインフレの加速がみられるとともに、サプライチェーンの脆弱さが浮き彫りになり、グローバル経済の不安定さが顕在化した時期でもありました。

こうした将来予測が難しい時代において、今後とも経済

成長を遂げていくためには、多様な背景や価値観、専門性を持った人々と協働しながら大きな価値を生み出していくことが求められ、私たちはそのための共感力や創造力を磨くことに努めていかなければなりません。

しかしながら、こうした共感力などを得るためには、多くの困難や課題にぶつかることと思います。そうした場合には、真つ先に、豊かで厳しい自然を有する富山の地で学んだこと、そして多くの学友との交流や、自分の成長を後押ししていただいた諸先生方の姿、また、同じ志を抱いている多数の同窓生が身近にいることを思い出して、つながりを深めて欲しいと思います。

そして、置かれた環境をしっかり把握して、幅広い視野を持ちつつ、関係の方々と十分なコミュニケーションを交わしながら、協調して果敢に挑戦していただきたいと思っています。この富山で培った識見や経験、そして人脈は、皆さんの新たな挑戦に大きな勇気や気づきを与え、ともに、無限の可能性が拡がり大きな成功につながっていくものと

確信しております。

最後に、皆さんには、二つのことをお伝えしたいと思えます。

一つ目は、これまで自分を支えていただいた家族や友人、地域の方々など周囲の方々への感謝の気持ちを持ち続けること。

二つ目は、自分の人生の行先は、あくまで自分の気持ちに素直になって、自分としっかりと対話をしながら納得したうえで判断していくことが大切であることです。その際には、自ら限界という壁をつくることなく、自由で大きな世界を意識しながら、これらの長い人生の歩みを、一歩ずつ踏みしめて進んでいただきたいと思えます。

結びに、皆さんの今後のかぎりないご活躍と輝かしい未来が拓かれることを、心からお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

令和七年三月二五日

富山大学越嶺会会長

伍嶋 二美男



馬ゼミ



龍ゼミ



森嶋ゼミ



岩内・松井先生と共に



松井隆幸先生
お開きの挨拶



橋口ゼミ



小柳津ゼミ

令和7年度入学生出身地

都道府県名		男	女	計
北海道		4		4
東北	青森県			
	岩手県			
	宮城県			
	秋田県	2		2
	山形県			
関東	福島県		1	1
	茨城県	1		1
	栃木県			
	群馬県	3	2	5
	埼玉県	1	1	2
	千葉県			
	東京都	2		2
甲信越	神奈川県	3		3
	山梨県			
北陸	長野県	19	10	29
	新潟県	5	4	9
	富山県	53	61	114
東海	石川県	23	37	60
	福井県	11	7	18
	静岡県	4	3	7
近畿	岐阜県	17	10	27
	愛知県	25	6	31
	三重県	11	1	12
中国	滋賀県	1	1	2
	京都府			
	大阪府	3		3
	兵庫県	3	1	4
	奈良県	3		3
四国	和歌山県			
	鳥取県			
	島根県			
九州沖縄	岡山県			
	広島県			
	山口県			
	徳島県			
	香川県			
	愛媛県			
	高知県			
	福岡県			
	佐賀県			
外国の学校	長崎県			
	熊本県			
	大分県			
外国留学生	宮崎県			
	鹿児島県			
計	沖縄県	2		2
外国の学校				
外国留学生		2	1	3
計		198	146	344

入学

富山大学の入学式が四月八日(火)富山市総合体育館で行われた。九学部入学生一八七五名、大学院五四八名計二四二三名が斉藤学長から入学を許可された。学部入学生代表として経済学部の西山葵さんが宣誓した。経済学部生は三四四名、大学院共創経済プログラム生は十一名であった。



入学宣誓文を学長に手渡し、学部新入生代表の経済学部・西山葵さん

富山大学統合二〇周年
記念式典・
記念シンポジウムの
開催について

二〇〇五年十月一日に当時の県内三国立大学法人が再編・統合を行い、新たな国立大学法人富山大学が発足してから本年をもって二〇年の節目を迎えることとなります。そこで左記のとおり記念事業が開催されることとなりました。

二〇二五年十月一日(水)
一三時～一三時二〇分
記念式典(黒田講堂)

一六時三〇分～
懇親会(学生食堂)

- 一. 「富山大学の今」
パネラー…
中尾哲雄氏
齋藤滋学長 他
- 二. 「富山大学NEXT
二〇年に向けて」
パネラー…
本学卒業生
大学院生
学部生

支部・各回だより

関東越嶺会

講演会・新年会報告

二月一日(土)正午より東京富山会館(文京区白山)にて、開催されました。会場の東京富山会館は、残念ですが本年三月で閉館となりました、長年にわたり東京富山県人会連合会会員(関東越嶺会も会員)にとって、聖地の一つでした。連合会は四月より赤坂富山会館(港区赤坂)へ移転しました。

司会を林明宏代表幹事（学部二八）が務め、ゲスト紹介祝電を披露しました。続いて飯塚修会長（学部二五）が開会挨拶をしました。会長は「ゲスト・会員の出席に感謝する。皆さんにとって今年がハッピーになるようにと越嶺会の法被を用意した、後ほど着用する。今日の講演は戦前・戦後と日本や国際経済を牽引した財閥の話し、大変楽しみです。第二部の新年会では、ビール・ワイン・富山のお酒を沢山用意したので、適正飲酒を心がけて楽しんで。」と

挨拶しました。



会場風景と講師の有沢さん

今回の講師は有沢正道氏（学部一八）、新湊市（現射水市）出身。住友不動産（株）や住友家の財産管理会社など住友グループで長きにわたり活躍されました。演題は『旧住友財閥と住友グループの変遷』道頓堀人情「負けたらあかん東京に♪」の精神で』。講師は「大阪在住が長かったので、今日はカタイ話しを大坂漫談風にやわらかく話したい。関連するエピソードを中心に進めていきたい。」と切出しました。

(1) 旧住友財閥
○財閥とは何か⇒富豪の家
族・同族の封建的な所有・支

配下に成り立つ多角的企業集團であつて、それぞれの産業部門にあつて寡占的地位を占める。住友家の事業経営の関与は「君臨すれども、統治せず」であつた（番頭政治）。住友財閥は現在十七代目であり、世界で最も古い歴史を持つ財閥と言われている。

○三大財閥とその創業者〓住友財閥（住友政友）、三井財閥（三井高利）、三菱財閥（岩崎弥太郎）。「結束の住友」「人の三井」「組織の三菱」と言われる。

○住友財閥の歴史Ⅱ 初代住友政友が京都で開いた「富士屋」（書籍と薬）が発祥であり企業グループとしては、愛媛県新居浜市の別子銅山（後の住友金属鉱山）から始まる。

(2)住友グループの変遷

○一九四六年にGHQにより大小の財閥は解体された。第十六代家長は住友商標を使用しないと表明したが、総理事等はその使用を懇願し、家長は承認した。結束の住友として井桁マークの暖簾に拘った。各財閥は一九五三年の独禁法改正などにより復活し、M&Aを繰り返し今日に至っている。

○住友主流企業「グループ」は十九社で構成されている。主な企業は住友金属鉱山・住友化学・住友電工・住友商事・三井住友銀行・日本電気（NEC）。

○住友の社会貢献―大阪・中之島図書館・慶沢園、東京・皇居外苑の楠木正成像（高村光雲作）。

○住友の主な文人社員Ⅱ源氏鶏太・川田順・山口誓子。

○住友關連施設 住友有芳園
(住友家本邸)・住友資料館
(住友に関する歴史研究機関)

泉屋博古館（せんおくはつこかん）は中国青銅器が中心。量、質とも高い評価を得ている。本館は京都東山鹿ヶ谷。

第二部の新年会（懇親会）は、塚光雄副会長（学部十一）の乾杯挨拶で開始された。副会長は「昭和の時代に大手商社であった安宅産業が倒産した。安宅が保有していた数々の美術品（いわゆる安宅コレクション）が散逸しないように動いたのが住友グループである。六本木にある泉屋博古館東京でその一部が

展示されている、見学されたいでしょう。」と住友グループの功績を称賛されました。各テーブルには、富山名産のます寿し・かまぼこ・日本酒(羽根屋・立山他)が並べられ、会話も盛り上がり、久々に旧交を深めました。時間も限りがあり宴酣の中、永井雅律副会長(学部二一)の閉めの挨拶となりました。副会長は「NYタイムズで二〇二五年行くべき所に富山が選ばれた、富山の知名度が一気に上がり訪れる人もきつと増える、年初から大変喜ばしいこと。」と挨拶し、一本締めにてお開きとなりました。

【出席者】

〈ゲスト〉

講師Ⅱ有沢正道(学部一八)

東京富山県人会連合会Ⅱ

横山 隆

仰岳会関東支部Ⅱ平尾外志雄

カメラマンⅡ星野規子

アサヒビールOBOGⅡ

麻生 尚・輝江哲治

小野田美都江

〈会員〉

学部

十一回 塚 光雄、石出宗秀

十四回 渡邊慶孝

十八回 関本喜茂、野村邦雄

長谷川健郎、
盤若義一、福田哲郎
今井修一
永井雅律、江藤隆典
飯塚 修、村山 修
石川富洋
前田昭夫
林 明宏、吉田正克
森 秀貴
柿本浩和、西能徹哉
三二回 山本康二
(林 明宏 記)

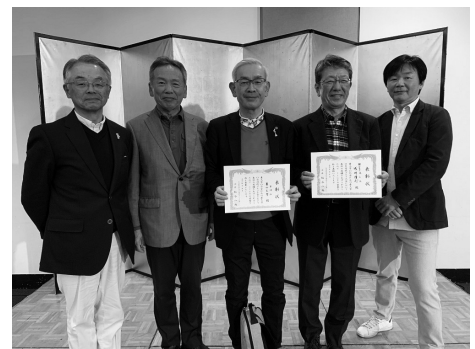
第二八回石川県大学

OB対抗ゴルフ大会

浅井清志さん

(学部三四回) 優勝

三月二二日(土)、ゴルフクラブツインフィールズ(石川県小松市)にて、石川県及び近隣に在住する各大学OBを対象に、ゴルフを通じた親睦交流と健康増進を目的に、今回、二十一大学、一二七名が集いプレーを楽しみました。富山大学からは越嶺会のメンバーを中心に七名(うち四名が初参加)が参加し、時折吹く春風に悩まされながらも雨に降られることもなく全員無事ホールアウトできました。



表彰式

結果は、個人部門では、浅井清志さん(三四回)が、OUT39、IN47、GROSS86、NET69・2で見事優勝される快挙を成し遂げられました。団体部門は、前年より三ランクアップの十位となり、辛うじてベスト10入りを果たしました。来年は、六年ぶり二度目の優勝をめざし、表彰式で大学歌を披露する栄誉が得られるようチーム力を高めていきたいと思えます。

参加者

伊田知弘(学部二七回)

長崎公一(仰岳会)

河原 靖(学部二八回)

中本秀史(学部三三回)
浅井清志(学部三四回)
山田裕之(学部三四回)
本田泰郎(学部四一回)
(幹事 中本秀史 記)

事務局からのお知らせ

会報発行予定

第一〇一号

二〇二五年一二月

第一〇二号

二〇二六年五月

これまでの年二回発行に戻ります。

原稿募集

一〇月一五日締め切り

八〇〇字程度

他に写真(白黒になります)

メール、郵送にてお送りください。

卒業論文をお返しします

メール、手紙、電話等にてご連絡ください。受け取られましたら受領書と郵送料(レターパック四三〇円)を返送願います。

会員の計報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
学部 1 回	山本伊智朗	令 5 (2023). 7 .19	学部11回	五十里紘一	令 7 (2025). 3 . 5
学部 3 回	鈴木 敏夫	令 4 (2022). 4 .10		松村 正夫	令 6 (2024).12. 3
	藤川 猛	令 7 (2025). 3 . 3	学部13回	小泉 信英	令 6 (2024).10.28
学部 4 回	荻田 満治	令 7 (2025). 2 . 7	学部21回	松本 好司	令 6 (2024).12. 3
学部 5 回	田開 賢二	令 4 (2022). 4 . 5	学部41回	安川 大助	令 7 (2025). 2 . 1
	高田 瑞夫	令 4 (2022). 2 .11	学部57回	高畠 大輔	令 2 (2020). 5 .18
	中保 公英	令 7 (2025). 2 . 1	短大 2 回	平井 洋毅	令 6 (2024).12.25
学部 6 回	中崎 祐治	令 6 (2024). 5 .27	短大 7 回	鮫島 一	令 7 (2025). 2 . 3
学部 8 回	久世 真也	令 7 (2025). 2 .24	短大14回	川筋 稔	令 5 (2023).11. 4
学部 9 回	滝沢 潔	令 6 (2024).10. 4			
	寺腰 俊男	令 6 (2024).11. 6			
	本江 繁儼	令 7 (2025). 1 .13			

越嶺会総会、各地支部総会のご案内

越嶺会総会

六月五日（木）

午後六時

カナルパークホテル

会費 八千円

福井支部総会

十月二五日（土）夕方

関東越嶺会総会

同封の関東越嶺会報を

ご覧ください。

石川支部総会

七月二五日（金）

金沢ニューグランド

ホテル

東北支部総会

仙台市内

関西支部総会

九月六日（土）正午

東海支部総会

九月二〇日（土）正午

東京第一ホテル錦

会費 八千円

越嶺会総会へのお誘い

日時：2025年 6 月 5 日（木） 18：00

会場：オークスカナルパークホテル富山

富山駅北口（富山市牛島町11－1 電話：076－433－1122）

会費：8千円

FAX 送信票（越嶺会事務局 FAX:076-445-6419）

6 月 5 日（木）総会に 出席する 欠席する

お名前 _____ 学部・短大・院 卒回 回
年卒

通信欄

住所変更通知欄（越嶺会事務局 FAX:076-445-6419）

住所や姓名等に変更があった際はFAX等でお知らせ下さい。

お名前 _____

新住所 _____

新電話 _____

（差し支えなければメールアドレス _____）

新勤務先 _____

―― 通信欄 ――